

# すべては、巡回監査から始まる! その十二

## 「書面添付推進事務所インタビュー～税理士法人マークス編～」

大阪中央支部 巡回監査・書面添付推進特別委員 得田 政臣

\*\*\*\*\*

今回は、平成22年9月に設立された税理士法人マークスを訪問し、代表社員の植村祐三先生と福田重実先生のお二人から、事務所における書面添付推進の取り組みについてインタビューをさせて頂きました。



### 1、設立後から現在(平成23年7月末)までの書面添付の実績推移をお聞かせ下さい。

<植村>税理士法人マークスの前身である植村会計事務所時代は18件でしたが、現在は41件まで増えました。

<福田>大体毎月2件ずつ新規推進しているペースです。三年後の目標は100件です。

### 2、そこまで急激な書面添付推進を決断した理由は何だったのでしょうか?

<福田>税理士法人設立に際し、事務所生き残りのための差別化をどこで図るかを真剣に考えました。昨今の時流である安売りには手を出すべきではない、品質向上こそが事務所生き残りの必須条件だ。こう考えた時に会計事務所が出来る品質向上は書面添付以外あり得ない。このような結論に達したんです。

### 3、書面添付推進にあたっての事務所の具体的な施策を教えてください。

<植村>植村会計事務所時代から1件推進当たり5,000円の褒賞制度を設けていました。それを福田君は上手に活用してくれています。

<福田>施策の推進は「販促活動」、達成できれば「手当支給」。非常に合理的だと思います。この褒賞制度を活用し、とりあえず1年目はしっかりと「数」を叩き出すつもりです。2年目は所見の記載内容などの「質」を重視しようと思っています。職員には、「前年分を焼き回して、楽をして手当をもらえるとは思わないよ!」と発破をかけています(笑)。

### 4、書面添付を推進し出してから職員さんや職場に変化はありましたか?

<福田>目に見えて職場の雰囲気が明るくなりました。書面添付も「出来ない」ではなく「どうやったら出来るのか」を職員同士で話し合うようになりました。失敗談も事務所の共有財産ですから努めて報告するようにさせ、改善策を皆で一緒に考える、そういう風土づくりを心掛けています。

<植村>明るく元気にきびきびとやってくれていると思います。福田君も良く職員を指導してくれていると思います。

### 5、最後にこれからの書面添付推進に取り組もうとしている会員先生にアドバイスをお願いします。

<福田>書面添付の推進は「所長のリーダーシップ」に懸かっています。所長が率先して汗をかき、職員と一緒に取り組む。これが肝要です。

<植村>職員に不満を抱かせず取り組んでもらうための「褒賞制度」。これもひとつの取り組みのきっかけ作りには役立ちます。先生方も是非導入を検討してみてください。

植村先生、福田先生、長時間にわたり有用なお話をありがとうございました。



(得田特別委員)(植村祐三先生)

(福田重実先生)



事務所風景